

事務事業名	若者チャレンジ推進事業(課題解決人材育成確保)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課			
総合計画体系	政策名	< I > みんなで築くまち<< 協働・行政経営 >>	所属G	チャレンジ創生G	課長名	鳥谷 健二		
	施策名	(01)市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	武田 遼太	電話番号	0854-40-1011 (内線) 2333		
	基本事業	(002)まちづくりの人材確保	予算科目	会計	款	大事業	大事業名	企画総務管理事業
	目的	対 象 市民 意 図 地域社会の担い手になる。		項 目	中事業	中事業名	若者チャレンジ推進事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
社会起業家や地域貢献等を志す若い人材	雲南市のまちづくりに貢献してもらう
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H23 年度 ~ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 )	地域課題解決を実践する若手人材の育成確保を進めるため、起業プランや地域活性化プラン等の実現を目指す若者を掘り起こし、プラン実現のための企画・実践をサポートする「幸雲南塾」や若手人材掘り起こしとネットワーク化を進める「定例勉強会」を実施する。また、全国の先進自治体や都市圏NPOと連携協働し、都市圏で地方起業に関心ある人材とのネットワーク構築や人材誘致をすすめる。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動) ・幸雲南塾2021の企画・運営 ・スペシャルチャレンジホープ伴走支援 ・若者チャレンジ支援コーディネーター(CN)による若者支援 ・ローカルベンチャー推進協議会との連携・協働による都市圏人材とのネットワーク構築及び人材誘致 ・委託業務契約等	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 塾卒業生のフォロー体制の構築、プラン実践に向けたチャレンジ資金の提供、定例勉強会の開催などの改善に努めている。都市圏NPOとの連携により、地方創生に関心ある企業や地方起業を志向する人材(若者)とのネットワークも広がっており、R2年度はこのネットワークとの接続を行い塾生の視野を広げるとともに伴走を行った、

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア 雲南市のまちづくりに関わっている塾修了生の数	人	35	15	11	15
イ 塾修了生の自主企画事業の実施回数(累計)	回	36	41	48	55
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)	② コストの推移	単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)	
・委託費 15,820千円(塾運営・CN配置)	財源内訳	国庫支出金	千円	15,620	12,821	11,991	9,030
・使用料 462千円(サーバー使用料)		県支出金	千円				
・負担金 7,700千円(ローカルベンチャー協議会)		地方債	千円				
合計 23,982千円		その他	千円	16,078	12,822	6,945	9,190
		一般財源	千円			5,046	
	事業費計	千円	31,698	25,643	23,982	18,220	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	幸雲南塾では、塾生同士の連携が生まれ、お互いのリソースを共有し合うことで多くの実践が生まれた。都市圏のNPOや起業家人材とつながり、塾生の事業の成長や意識の変化があったことに加え、雲南に関わりをもつ都市圏人材が増えつつある。
② 事業実施するうえでの課題	幸雲南塾卒業生同士のつながりが個別でしか形成されていない。初めの一步を応援する支援は幸雲南塾に限らず生まれてきており、若者チャレンジが何を支援するのか検討が必要。
③ 課題解決に向けた改革改善等	幸雲南塾生同士がつながり合い、互いに学び合えるコミュニティを形成し、新たにチャレンジしたい人もコミュニティの中で学び合い、成長する場を検討・実施する。